月山（山スキー）

2011 年 6 月 6 日
松田

6 月 06 日（ガス、曇り時々晴れ）

今シーズンの山スキーの最終戦は、鳥海山とどちらにしようか迷ったが、雪の多そうな月山に決めた。先々週の朝日とインターは同じなので、結構遠い。早起きし 5 時半に出発し、3 時間ほどで、スキーヤーでごった返す姥沢駐車場に着いた。あまりの賑やかさに気が引け、リフト待ちの行列を見て気が滅入り、静かな鳥海山東面に行けば良かったと後悔する。リフトを降り、スキーヤーで埋まる姥沢山の斜面をトラバースして月山の方に向かうが、ガスがかかっていて山はほとんど見えない。雪の大斜面をトラバース気味に進み、傾斜がきつくなってしばらく上がると雪が切れていて、ここからスキーを担いで夏道で山頂を目指す。上に行くほど天気が悪く、山頂付近はガスと風でひどい天気だ。

月山神社のお参りすると、その一角だけ嘘のように風がなくて不思議な感じがした。

小屋の陰で昼食を取り、予定では清水行人小屋の方に滑るはずであったが、全く視界が利かず、これは無理だなあと思った。
でも悔しいので、大雪城というのはどんなものか見ようと、南東面の方に少し降りると、こちら側は意外と視界が効いて、だだっ広い緩傾斜の大雪面が見えた。別に雪のお城があるわけではなく、ひたすら広い雪面が大雪城なのである。

◆広大な東面を一人占め

誰もいない、シュプールもない大斜面の滑降は、気持ちいいの一言。クレバスが所々にあるが、飛ばそうという気にもならず、のんびり滑る。下がるに連れてさらに視界も効き、藪が出始めて傾斜が急になる辺りで、清水行人小屋が右手に見えた。トラバースが消耗しそうなので、小屋には行かず、ここから戻ることにする。
緩斜面の登り返しも、またのんびりとしたもので、頭上には常にお月さんのような月山の頂稜を望みながら、ゆっくりピークに戻る。
山頂に着き、ガスが流れる中で、この広々した東面を眺めながら、一人でボーっとしていることにとても充足感を感じてしまった。それほど月山の東面は茫洋として、広いのである。
今度は念仏ヶ原の方に滑りたかったが、どうも天気がいま一つで、また雷でも来ると嫌なので、帰路につく。山頂を越え、少し降りてスキーを履き、姥ヶ岳に向かう大斜面を滑る。ここは結構シュプールがあるが、広いので全く気にならない。少し登り返してスキー場に出ると、突然、混雑と喧騒の世界になった。荒れてこぶだらけの斜面では、あらためてスキーの下手さを思い知らされる、
げんなりして、ようやく車に戻り、東面を滑ることができて良かったとつくづく思った。
もし、ピークの往復だけだったら、随分とつまらない山行だったろうと思う。

大雪城の大斜面

コースタイム
リフト終点（９：４０）ー　山頂（１１：１０）ー　大雪城　ー山頂（１３：１０）ー駐車場（１４:２０）
地形図　　月山